

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和6年4月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670300450
法人名	株式会社 ケイシン
事業所名	グループホーム 太陽の家
所在地	鹿児島県鹿屋市今坂町12405番地25 (電話) 0994-44-6581
自己評価作成日	令和6年3月10日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センター福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	令和6年3月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当法人は幼児教育・高齢福祉・障害福祉の総合福祉を目指して県内に30施設以上の施設運営を行っています。運営者は太陽のごとく我が身を燃やして万物に恵(愛)をとの思いで「太陽の家」と命名し、相手を思いやる「敬心」の心を大切にしています。職員はその理念のもと、入居者様に和顔・愛語・敬いの心で介護できるように日々研鑽しています。また、安心と安全を提供するべく、入居者様に寄り添った質の高い介護を目指しています。管理者は職員が気軽に意見を言い合え、協力関係を築ける職場環境を整え、施設内の研修も毎月取り入れサービスの質の向上と職員のストレスマネジメント・アンガーマネジメントの構築に力を注いでいます。

- ・当事業所は同一法人運営の保育園に隣接して建てられている。法人では町内の清掃活動の実施、オレンジの窓の開設等、地域貢献に積極的に取り組んでいる。事業所でも町内会の秋祭りに職員が出演したり、訪問美容師や踊りの慰問を受け入れる等、地域資源を活用して地域との交流に取り組んでいる。
- ・当事業所では、複数の医療機関との24時間医療連携体制が築かれており、歯科及び皮膚科の訪問診療利用もできることから、家族の医療面における安心となっている。また、家族の意向に沿って看取り介護にも取り組んでいる。
- ・管理者と職員の関係が良好で、2ユニットで調理を交互に担当する等、協力関係が築かれている。
- ・管理者は、資格取得や研修受講を支援し、職員の質の向上を図ると共に職員の有給取得や個人的事情への配慮などで働きやすい職場環境づくりに取り組んでいる。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	地域に根ざした入居者主体の共同生活をホームの理念にあげ、ケア介護目標や理事長の思いとともにホーム掲示し、介護の基本となるように努めている。	理念はホールに掲示し、重要事項説明書にも記載している。職員は各自で理念を確認してケアに当たっており、毎月合同のミーティング時にケアの振り返りを行っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、回覧板の受け渡をしている。月1回クリーン作戦として町内の清掃活動を行っている。2回月に1回訪問散髪をしていただいている。また、認知症介護の相談窓口としてオレンジの窓も開設している。	回覧板で地域情報を得ているが、感染予防のため秋祭りのみ職員が出演している。法人で毎月清掃活動を実施し、リハビリ踊りや訪問美容師を定期的に受け入れて地域との交流に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	オレンジの窓を開設して、地域の方が認知症介護に関する相談を受けられるようにしている。認知症カフェはコロナ禍で休止中である。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生員や地域住民代表、家族代表、市役所の方に参加を頂き、また書面で状況報告をして意見や感想をいただいている。	2ヶ月に1回の運営推進会議のうち2回は対面で実施している。書面開催時は資料を委員に郵送後電話で意見等を把握している。コロナ感染症発生時の職員体制等、事業所の取り組みについての周知を図るとともに、サービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	市の担当者と、電話やメール、窓口で相談や報告をしている。	市の担当者とは、運営推進会議時の意見交換や電話・メール・窓口に出向く等で相談・報告を行い連携を図っている。生活保護担当者とも協力関係を築いている。市のオンラインでの集団指導に参加し情報を得ている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会を3ヶ月に1回開催し、言葉の拘束も含めて身体拘束につながる事象はないか確認しあっている。	法人で指針を作成しており、事業所で委員会を3ヶ月に1回、法人で年2回研修を実施している。不適切な言葉に気づいたら管理者から注意を促している。部外者からの感染予防のため玄関の施錠をしているが、外に出たい利用者には散歩に同行する等、行動を制限しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で虐待防止委員会を立ち上げ、指針を定め、定期的に委員会を開催し年二回の研修会を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修会や勉強会に参加し理解を深めるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約は十分時間をかけて重要事項説明書に基づきホームの理念や介護に関する考え方を説明している。改定時は家族会もしくは書面で説明し、同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	現在は家族会は開催できていないが、面会時や電話などで状況を報告し、意見要望をお聞きするようにしている。	本人には日常会話で要望を聞き、好物を食事に取り入れたり、差し入れを依頼している。家族には、電話・面会時に要望を聞き、希望者に写真を送付している。外出希望についてはその時の状況で判断しており、外出の事例もある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	代表者は年1回職員のヒヤリングを行い、職員に意見や要望を聞く機会を設けている。また管理者は毎月のミーティングで職員の気づきや要望を運営者に告げている。	管理者は普段から話しやすい雰囲気づくりに努めており、全体での検討や意見統一を要する場合は、ミーティングで取り上げて反映できるようにしている。年2回の個別面談を実施する他、個別相談は主任及び管理者が受けて対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者は、毎月管理者会議で運営状況や職員の状況を把握し、職場環境や条件などの整備を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修を受ける機会はじゅぶんに配慮されている。資格取得についてもバックアップしている。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と交流し、情報交換をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>入居前に本人と面談しゆっくり話をしながら、心身の状況や生活歴・既往歴・要望などを聞き、入居前に本人の状況を把握し、入居時の不安を和らげるようにしている。</p>		
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居時、介護の状況や困っていることをお聞きして一緒に考えて支援していく姿勢を心掛けている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>ご家族と本人を交えた会話の中から、必要な支援を検討している。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支え合う関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている</p>	<p>家事や料理・季節の行事などの生活面で入居者様から、教えていただく機会を意図的に作っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人と共に支え合う家族との関係</p> <p>職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>ご家族の役割を話し合いケアプランに位置付けている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>利用者ごとになじみの人は把握している。面会は窓越しであるが日常会話の中でなじみの人の話を取り入れたりしている。</p>	<p>家族との窓越し面会を支援し、2ヶ月に1回、コメント付きの写真やライン動画を送付し、家族との繋がりが途切れないように努めている。2ヶ月毎の訪問美容師や毎月の踊りの慰問の来訪がある。</p>	
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>気の合うお友達とおしゃべりができるように座る位置を変えたり、事あるごとに職員が間に入りコミュニケーションを図れるようにしている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>必要な方は退去後も交流を持っている。また、入院中の方はお見舞いに行ったり、担当の相談員と連絡を密にしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	本人の言動に気を配り思いをくみ取れるように、申し送りやミーティングで情報共有している。余暇のお時間の過ごし方も趣味や興味のあることを取り入れている。	本人が話しやすいように声掛けを工夫し、思いを把握できるように努めている。家族の情報を参考に、本人の表情や行動を見て思いを推測し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活歴や職歴などを把握して会話の糸口として話を聞き、これまでの生活の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの中で一人一人の状況を確認している。また、毎月のミーティングで生活状況や気づいたことをスタッフ間で共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様や家族の思いを把握して主治医の指示や職員会議時の意見・気づきをもとに介護計画を作成している	家族の希望を電話・面会時に把握し、ミーティングでの職員の意見を入れて介護計画を作成している。モニタリングは3ヶ月に1回実施し、6ヶ月毎及び状況変化時に見直して現状に合った介護計画にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子やケアの結果を個人記録に記載し、職員間で情報共有しながら、介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々に必要な日用品の購入や買い物支援、通院の支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ドライブを計画して、霧島丘公園のバラ園やアジサイ、ポピーの見学に出かけている。吾妻流によるリハビリ踊りを月1回受け入れている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意向に沿ってかかりつけ医や往診医と連携をとっている。また24時間医療連携体制を整備し、夜間や緊急時の対応もできる。歯科医も訪問診療を受けられるようにしている。	契約時にかかりつけ医の希望を確認し、家族対応のかかりつけ医継続を支援している。歯科及び皮膚科の訪問診療もある。緊急時を含めた24時間医療連携体制が整っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>看護師が常勤で勤務しており24時間対応できる体制である。介護職員がとらえた情報や気づきを看護職員に相談している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>鹿屋市共通の入院時サマリーを活用し状況を伝えている。また、適宜に入院先の相談員に電話し現在の状況を把握している。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時看取り指針の説明を行い同意を得ている。重症化した場合主治医と家族と会し、今後予想される経過を説明し、終末期に向けた方針を話し合い、職員、家族、主治医と共有しながら看取りに取り組んでいく。</p>	<p>契約時に、看取り指針で重度化等の場合の対応について説明し、同意書をもっている。重度化の場合、医師から家族・管理者への病状説明を受け、家族の意向を確認している。家族の意向に沿って支援に取り組んでおり、看取り介護も行っている。職員の研修や看取り後のカンファレンスも実施している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>救命救急の講習を受け実践に備えている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>保育園と合同の避難訓練や自主訓練と消防署立会の防災訓練を実施している。また、その都度、反省点を話し合っている。緊急装置に地域住民にも連絡が行く体制になっている。BCPを策定し、近隣の施設と連携を図っている。</p>	<p>隣接保育園と合同で、年2回昼夜想定地震・火災避難訓練を実施し、年1回消防署の立ち合いを受けている。緊急通報装置に住民2人の登録協力があり、地域との協力体制を築いている。非常用の備蓄は、3日分の水・米・缶詰・レトルト食品・カップ麺等の食料及びカセットコンロ・ランタンを準備しており、発電機を購入予定である。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	不適切ケアについて自施設で研修会を実施している。また、敬いの心で介護することを介護目標の一番にあげ、毎日確認している。	研修を実施し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。排泄情報を大声で伝えない・タンスの上にパットを置かない・排泄介助時の声掛け・入浴の同性介助等、羞恥心へも配慮して実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の気持や権利を守る事を重視し、声かけや対応を行っている。入居者の誇りやプライバシーを損ねないように声かけに配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を配慮しながら入居者の生活リズムに合わせて食事や入浴、昼寝、レクリエーションなどを行っている。本人が選べることを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	訪問散髪を2ヶ月1回頼んでいる。又、衣類が食事などで汚れた場合は随時更衣している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食器洗いなどができる方にはして頂いている。季節の行事に合わせた献立にし食事を楽しめるように取り組んでいる。また、嚥下障害などある方には、形態を工夫している。	夕食は配食サービスを利用し、朝・昼は職員が個々に合わせた食事形態で調理提供している。利用者も一緒に下ごしらえをしている。手作りの行事食や誕生日のケーキ・好物・外注の弁当は昼食で提供し、食事を楽しんでもらえるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の食事量や水分量を確認して必要な摂取量が確保できるようにしている。必要に応じた飲み物を提供している。週1回ヤクルト屋さんの訪問販売を利用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に応じた口腔ケアを行っている。スポンジスワブやふき取りシートを活用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表で入居者ごとの排泄パターンを把握し、可能な限りトイレでの排泄を心がけている。	日中はトイレでの排泄を基本に支援し、身体状況等で2人介助も実施している。個々の排泄パターンを参考に声掛けし、排泄の失敗が減少した事例がある。排泄用品は個々に適したものを検討して使用している。夜のみ、ポータブルトイレやオムツを使用する利用者もある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便習慣を付けるようにトイレに座っていただき個々に合った便秘対策を行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入居者のその日の体調に合わせて入浴を支援している。入浴の拒否のある方は、タイミングを考えたり、声かけや誘導を工夫している。	週3回午前中を基本に入浴を支援し、汚染等も対応している。同性介助や必要に応じてリフト浴や機械浴を活用し、安全にゆっくりと入浴を楽しめるようにしている。嫌がる場合は、声掛け等を工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床、就寝の時間はその方のペースに合わせている。又、個々の状況を見て昼寝を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳や薬の説明書を整理し全職員が確認できるようにしている。変更があった場合は、申し送りノートに記載し、全員が把握できるようにしている。服薬時はダブルチェックしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	得意分野でその方の力を発揮出来そうなことをお願いして感謝の言葉を伝える。経験や知恵を發揮できる場面を作る。		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	感染予防に配慮しながら、花見やドライブを実施している。	天候の良い時は近隣を散歩したり、徒歩で桜見物に出かけている。年間計画を作成しており、バラやポピー・アジサイ・コスモス見物のドライブに出かけている。家族と受診等で外出する利用者もある。	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	家族に協力をもらい、少額のお金を持っている方もいる。コロナ禍で買い物ツアーは行っていない。		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	ご家族よりの電話を取り次いだり、本人の要望があった場合は電話できるように支援している。携帯電話を所持している方もいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの天井が高く柔らかい採光が得られる。季節感を感じられるように、壁画を季節ごとに変えている。台所からは調理の音や匂いが伝わりソファなども設置して和やかに過ごせるように工夫している。	リビングは天井が高く、加湿器やエアコンで適度な室内環境に調節し、窓を開けて換気も十分行っている。季節を感じるように季節の作品等で飾りつけており、皆がテレビを囲めるようL字型にテーブルを配置したり、ソファの置き場所を工夫して利用者がくつろげるようにしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブルやソファの配置を考えたり、ソファで寛げるようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や馴染みの物を置き、居心地の良い居室空間作りを心がけている。	居室には、ベッドや洗面台・タンス・押し入れ・エアコンが備えてある。本人は自宅等で使い慣れた寝具やテレビ・衣装ケース・椅子を持ち込んだり、時計や電気カミソリ・化粧品・写真・ぬいぐるみ等の身の回りの品を置いて安心して過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや居室は分かりやすく目印を付けたり手すりを設置している。状況に合わせ洗濯物たたみ、台所仕事を無理なくできるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない